

〒060-0808
 札幌市北区北8条西6丁目2-23-806
 TEL 011-594-8454
 FAX 011-594-8455
 URL https://tomari816.com
 E-mail info@tomari816.com
 郵便振替口座 02790-1-100850

原発のない安全な北海道に



第43回法廷だより

2024年7月12日、控訴審第4回期日が札幌高裁で開かれました。

晴天の下

傍聴席は概ね埋まった

2024年7月12日午後2時30分より札幌高裁で、第4回口頭弁論期日が開かれました。傍聴席は多くが埋まっていました。

期日では、一審原告、一審被告が、それぞれ以下の書面を提出しました。

① 一審原告は、遠隔地居住の原告において、令和5年11月24日付訂正申立書で控訴の趣旨を変更したことに伴い、請求原因事実の補充をする準備書面②を提出しました。廃炉請求については、原子炉等規制法第43条の3の34第2項に基づく廃止措置に関する計画を定めて原子力規制委員会に提出することを求めるものであることを明示するとともに、裁判例を挙げつつ原発差止訴訟において受忍限度論が採用されておらず、この点は核燃料撤去や廃炉等の請求をしている本訴においても同様に妥当することを主張しました。

また、近郊居住の原告においては、次回期日までに能登半島



沖地震の発生を踏まえた避難計画に関する主張を行う準備書面を提出する予定である旨述べました。

原発を再稼働させ将来世代に放射性廃棄物の処理を押し付けるという原発事業の何重にもわたる無責任を指摘しました。

② 一審被告は、海底活断層と基準地震動に関する一審原告の主張に反論する準備書面(7)を提出しました。

一審原告 意見陳述

一審原告の意見陳述は、小寺卓矢さんが行いました。

自然写真家、自然写真絵本作家としての活動歴、特にたくさん子どもたちと接してきた経験を踏まえつつ、システムの暴走を封じ込める手段や漏れ出た毒性物質の拡散を食い止める手段がなく、希望的観測のみで突き進んだ結果福島原発事故が発生したにもかかわらず、その後原発事業者の場当たりの対応は続く一方、被災者への原状回復もなされていない。そのような状況のもと、さら

さらに、福島原発事故で被災者に押し付けてしまった理不尽を、今の時点でどのように原状回復すればよいかすらわかっていないという状況で、同じような理不尽を子どもたちに再び押し付けてしまつていけないように、将来の世代に胸を張って示し続けることができる廃炉という決断をするよう裁判所に求めました。

次回期日に向けた準備等

一審原告のうち、近郊居住の原告において、能登半島沖地震の発生を踏まえた避難計画の不備に関する主張を提出します。

一審被告は、一審原告準備書面②に対する反論の提出を検討するとともに、防潮堤、火山、基準地震動に関する主張を提出できるタイミングで提出する意向である旨明らかにしました。

今後の予定等

次回期日は、令和6年11月15日(火)午後2時30分からです。

次回もたくさんの方に傍聴にお願いいただき、ともに廃炉への意志を表明していきたいましよう。

(文責)佐々木泰平

意見陳述

控訴人 小寺卓矢

自己紹介

原告の小寺卓矢と申します。私は、大学で遺伝子工学を含む生物学を専攻し、その後、自然写真家ならびに自然写真絵本作家として活動してきました。その中で特に力をいれたのは、子どもたちに自然や生命の尊さを伝えることです。これまで、著作の読み聞かせなどを通じ、全国各地の子どもたちと交流を重ねてきました。

そのような者として今日は「子どもたちへの責任」という観点から意見を申し述べます。



原発事業の「無責任」

まず、2011年のあの東電福島第一原発の事故から今日まで、私が日々ますます確信を強めている思いを申し上げます。それは、原発事業がなんと「無責任な営み」であるかということです。

システムの暴走を封じ込める決定的な歯止めが無い。漏れ出た毒性物質の拡散を食い止める確実な手段も無い。そこにあるのは「暴走するはずがない、漏れ出るはずがない」という希望的観測ばかり。工学技術への過信と「備えの甘さ」が最悪の形で露呈したのがあの事故でした。

それ以降も備えの甘さと場当たり的な対応は続きます。例えば、事故原子炉の廃炉ロードマップはどつでしよう。あの致死的なデブリがせめて、取り扱い可能な状態になるのは一体いつですか。すでに環境中に降下してしまった放射性物質も、あれらは、いつ無毒化されますか。汚された森、野原、湖、海に対する「原状回復責任」はいつ果たされるのでしょうか。北電の皆さん、もし仮に皆さんが当事者なら、皆さんはその責任を果たすことができそう

ですか？

忘れてはならないことがあります。そうした場当たり対応で手をこまねいている間、被災した方々の暮らしはずっと、奪われたままです。

今から3年前、私は仕事の一環で、浪江町の帰還困難区域を訪ね、一時帰宅中の被災者から直接お話を伺ったことがあります。長らく放置されたままのご自宅。雑草と雑木に覆い尽くされた先祖伝来の農地。ネズミの糞にまみれた台所。獣に踏み荒らされた子ども部屋。そこにあの日以来置かれたままの赤いランドセル。そんな風景の前に、被災10年経ってもなお「悔しい」とこぼすその方の表情を、私はいまも思い出します。

しかし、その苦悩の元凶たる毒物を環境中に撒き散らした事業者は、ある事例において「それは無主物だ」と主張し、対応責任を放り出す。また、昨年、漁業者との約束をあっさり反故にした上で、実証的な検証もなく断行された、文字通り前代未聞の「炉心に触れた水の公海への積極投棄」。これもまた、場当たり対応の末の責任放棄の積み重ねに他なりません。

そもそも「数万年に渡るケアが必要な危険」「ミが生じる」という事実が数十年もの昔から想定さ

れていたのに、それをどこで処分するかさえ、21世紀もすでに1/4を経ようかという今になっても一向に定まらない。それどころか「再稼働して」「ミを増やします。あとの監視は、後世の皆さんでどうぞよろしく」と、わざわざ厄介の度合いを増しながら、まだこの世に存在もしていない他人にツケを先送りする。道理が通らないにも程があります。

原発をめぐるなんと多くのことが理不尽、不合理なのでしょか。そうした状態や構造を「無責任」と言わず、ほかに何と表現ができるでしょう。科学論や技術論、経済合理性を云々する以前の、なんと深刻な責任感の欠如、責任倫理の欠如でしょう。

子どもたちの幸せ

最初に述べたように、私はこれまで、写真絵本作家というなりわいを通じ、たくさん子どもたちと交流してきました。その中で強く確信に至ったことがあります。それは「子どもたちは、生き物の本性として、自分自身のへんをより幸せなものにしたいと願っている。そして、社会や他者との関係において出来る限り正しくかつ誠実であろうとしていく」ということです。その傾向は、どうや

らより幼い子らほど顕著であるような気がします。蛇足を加えるなら、我々がいまこうして裁判所に集まっていること自体が、じつはその延長線上のことなのだとは思っています。

その上で、私は一人の大人として、こう肝に銘じます。

「どの子も理不尽な抑圧に邪魔されず、それぞれに備わった生命の力を存分にまっとうできるようにしてあげること。それは、ヒトが社会的動物である限り、人類史を貫いて果たし続けなければならない責務である。そしてそれは、子どもたちの誠実さに見合っただけの誠実さを持って、果たされなければならない」という思いです。

しかし、2001年の春以降、私たち大人は彼らに対し何をしてきたでしょう。心安らげる場所から引き剥がし、異常事態にも物言わず順応することを強要し、その一方で「想定外」を言い訳にしながら先に述べたような深刻な理不尽、不誠実をこれでもかと見せつけてきました。

また、彼らの心と体に、簡単には拭い去ることのできない健康不安をも植え付けました。その中には、言葉にするのも苦しいのですが、

将来の生殖や遺伝に関する懸念も含まれていることでしょう。

あの事故の後、テレビで観たある映像の印象が、いま私の頭にこびりついていきます。被災地域の10代から20代と思しき男女が、放射能汚染について問うカメラに向かって、自嘲した口ぶりで次のようなことを言っていました。

「もういいよ。どうせわたしたち『モルモット』だから」。

もしかしたら、彼らが口にしたのは『モルモット』ではなく、『実験戸』という言葉だったかもしれない。いずれにせよ、私たち社会は、この言葉と態度にどう向き合うべきでしょう。

私自身、現在20代と10代の二人の娘の父親です。人の親として、私は、今からでも「ボロボロにされた彼らのへ生命の尊厳」を原状回復させてあげたいと思います。でも、どうすればそれが可能なのか、私には分かりません。「しんどいことはもう忘れ、ただ前を向いて生きる」と愚にもつかない気休めを言い続ける以外ないのでしょうか。もう責任の取りようが無いではないですか。

だから、せめて私は、今後もう二度と、この北海道においても、子どもたちが決してそんな気持ち

を抱かずに済むよう、彼らの暮らしの中から不条理な抑圧の芽を取り除いてゆきたいと思うのです。すなわち、無責任と倫理欠如に依って立つ原発事業を速やかに終わらせる。私は、それこそが、何らの言い訳も、みっともない場当たり対応も無しに、私たちが子どもたちのために、いまこうして遂行できる「責任ある営み」の第一歩だと信じます。

写真家として20年以上自然と向き合ってきた、私は今つくづく実感します。自然の営みは人間の想定通りになどなりません。私たち大人務めは、そうした人智を超えた自然への「畏れの気持ち」を、子どもたちの中で、いま命あることの「奇跡」に対する驚きや感謝へと昇華させてあげることです。決して、自然を呪い、人類の無力に絶望させることではありません。

裁判官の皆さま。どうぞ、何世代先の子どもたちに対しても「ほら、私たち大人はこの時こう決めたんだよ」と胸を張って示し続けることのできる、賢明なご判断をなさって下さい。切にお願いいたします。意見は以上です。

5・31勝訴記念 どうする泊?! 報告

ライラックの花が香る小雨の中、昨年続き2回目となる「5・31勝訴記念 どうする泊?!」行動を札幌チカホ空間で行いました。2回目となる今回は今春開始した鈴木北海道知事宛の『泊原発を再稼働させない』署名活動を中心に取り組み、200筆を越える賛意をいただきました。多くの方との対話の中には「家族が北電に勤務し署名は出来ないが趣旨には賛成する」という方もおり、あらためて原発の罪深さと泊原発の早期の廃炉を再認識しました。



Vol.2

原発事故と

精神病院

寄稿

くるみざわしん

(劇作家・精神科医)



2011年3月の東電福島原発事故直後、放射性ヨウ素による甲状腺の被爆を防ぐためにヨード剤を配布して服用させるという基本的な対策が、国の主導で行われると思っただが、全く行われなかった。

原子力工学の専門家がテレビに出演し、肝心のことを語らずに、国や電力会社に都合の良いことばかりをしゃべる。御用学者の次は御用医者が現れるぞと思っていたら案の定、山下俊一医師が現れた。「ニコニコしている人には放射能は来ません」という発言(同年3月21日福島市内の講演会)には言葉を失った。まとも

回しに嫌な予感がした。「ニコニコしている人」と「していない人」を選別する思考が働いている。その選別に精神医学が使われるかもしれない。放射能が来るのは、その人が「ニコニコしていない」からであって、原発事故のせいではない。「ニコニコしていないその人」に原因があるという理屈が作り上げられるのではないか。チエルノブイリ原発の事故の後には「放射能恐怖症」という病名ができ、不調を訴えると放射性物質や原発事故のせいではなく、症状を訴えるその人に原因があるとされたらしい。

日本でも同じようなことがおきるのかもしれない。案の定、2011年4月20日に文科省が「放射能を正しく理解するために」という文書を発表した。放射能(放射性物質)は無害であるかのような文言が並び、「放射線の影響そのものよりも、『放射線を受けた』という不安を抱き続ける心理的ストレスの影響の方が大きい」と言われています」とし、「災害時の子どものこころのケアとしては、日々の普通の生活を送って、教職員、保護者、友人などとの人間関係で安心感を持つるようにすることが基本です。(中略)保護者のふさぎこんだ気分や不安は、子どものこころの不安定さにつながります」と書いている。心理的ストレスの原因が原発事故であることに言及せず、子どものこ

ろの不安定さを「保護者のふさぎこんだ気分や不安」のせいによようにしている。保護者の気分や不安が子どもに影響するという当然の事実を盾にして、国や原子力産業の不誠実な態度が保護者や子どもに与える影響を不問にしたいようだ。

「放射能問題については保護者が正確な知識を持ち、必要以上に心配しすぎないことが重要です。いじめや心的外傷後ストレス障害(PTSD)などは災害時の子どものこころのケアの一部ですが、個別の対応が必要な場合には病院など専門の窓口にご相談しましょう」と続け、加害者が誰なのかをあいまいにしたまま、いじめやPTSDを持ちだして精神医療への相談を促している。PTSDはレイプ、虐待、戦争、交通事故など生命が危険にさらされる現実の出来事の後に生じる疾患であり、「心配しすぎて」PTSDになることはない。原発事故でPTSDを論じるなら、加害者である国と電力会社が自らの間違いを認めて謝罪するのが治療への第一歩だが、それをしないですませるために、精神医療を使おうとしている。

加害者である国と電力会社は、被害の原因が被害者側(保護者と子ども)の心配しすぎにあるかのような理屈を展開し、口を封じようとして

いる。これを繰り返されているうちに被害者は被害を受けたという事実

プロフィール

精神科医。劇作家。2011年からノーユークスアジアフォーラム・ジャパンに参加。原発誘致による分断を描いた『同郷同年』で『日本の劇』戯曲賞とOMS戯曲賞大賞、中央権力の横暴と闘う武士を描いた『忠臣蔵 破 エートス/死』で文化庁芸術祭賞新人賞を受賞。近著に『くるみざわしん 精神医療連作戯曲集 精神病院つばき荘/ひなの砦ほか 3篇』(ラグーン出版)がある。

第100回北海道電力 定時株主総会

脱原発をめざす北電株主の会

6月26日(10:00~11:47)北海道電力第100回定時株主総会が開催されました。会場前の歩道では開会1時間前から、共同株主提案グループと市民団体、政党支持グループなど20名ほどが参集し、アピール行動をしました。

今年も会社側がインターネット議決を呼びかけたため、来場した株主数はわずか158名と少数でした。前日までのインターネット議決により、「株主総会を開催する定則条件を満たしている」とし、議長斎藤晋社長)が開会を宣言。「報告事項、決議事項に対する質問は、会社からの報告や議案説明後一括して行う」「会計監査結果、事業報告などは招集通知に記したとおり」、総会時間短縮のための動画での事業報告は割愛する旨を告げました。

株主の議案主旨説明は本来3分のところ、本年も各議案につき2分と制限付き。取締役会は「招集通知に意見を記した通り、個別株主たちの共同株主提案(第4から12号議案)9議案すべてに反対である」とのみ説明しました。

総会議決権行使結果は、会社側の3議案は全て可決。共同株主提案9議案は全て否決されました。

【事前質問への一括回答のポイント】
※事前質問の人数や質問総数は今年も言及せず

〈泊原発の安全対策〉

泊原発の一日も早い再稼働を目指し、安全対策に新たに安全対策費を低減しつつ投

泊原発1、2号炉の点検・保管計画。原子力発電費は泊原発3号炉の発電費489億7700万円(昨年比47億円減)の一方で設備点検費は増加(世界一安全性の高い原発の再稼働を目指す)。

〈会計報告と財務状況〉

火力発電費として化石燃料費の高騰が今後も予測される。会計報告の期ズレ提供によつて増収となっているが、火力発電費負担が大きく、有利子負債残高が近年高止まり。経営効率化、資金調達円滑化、投資案件の検討・見直し、財務基盤強化が必須であり、自己資本比率を積み上げる15%超えを目標。

一般質問では能登半島地震の影響からか、原子力防災計画、泊原発の安全対策と費用、電気料金、核燃料売却益への質問発言が多くありました。

※以下に一部を抜粋して紹介します。

■送電停止になった顧客への社会的包摂について、どのように考えるのか、監査等委員は意見しないのか

・2023年度は9万9千件もの送電停止件数があった。(一昨年は9千件増)

■総会の招集通知にはWEBの閲覧のみで、各議案の趣旨説明、事業報告、会計報告関係書類(連結計算書類、貸借対照表など)が無いことへの抗議

会社回答:電子情報開示を参照できる

・修正動議「株主配当を取りやめ、生活困窮者に対し、措置することを求める」

※動議は即座に否決された。

■4メートルもの地盤隆起や津波前の引波に襲われた際、3号機の非常用ディーゼル発電機などを冷やすという貯留堰から汲む原子炉補機冷却海水には、原子炉そのものを冷やす水は含まれるのか、原子炉が動いていた場合、冷却時間は120分で充分か

会社回答:「停止した原子炉周りを冷やす水を汲むために貯留堰を作った。120分と

いうのは引波ならばその程度で回復するというところで隆起の場合は間に合わないが、その様な隆起はそうそう起きず、可搬型ポンプ車なども用意しているので原子炉と使用済燃料ピットは冷却できると考えている」

稼働型電源車の走行に影響はない。世界最高水準の安全性を目指し、泊原発を稼働させたい。

■自然再生エネルギーの大量導入で電圧を調整できるのか? 安定供給のため北本連系の送電容量を増やすべきでは? ラピダスの電力供給計画では純粋自然エネルギーを求めている。原発の電気で賄うのを好しとするか?

会社回答:大量な電力供給(半導体メーカーやラピダス)、CO2フリーなどお客様ニーズに対応する。

■昨年、規制料金を大幅値上げし、今期は創業以来の増収662億円を報告しながらも電気料金値下げに踏み切らない理由は何?

・泊原発の設備点検、維持費 どこにいくらかかり、会計報告のどの科目に分類されているか?

会社回答:保有資産の有効活用、燃料費期ズレ影響、自己資本比率積み上げ、財務状況、有利子負債の残高高止まりのため、棄損した自己資本を回復する用積み上げる。

※資本調達 流動資産で流動負債をカバーできていない。

維持点検費は2022年42億円 23年に68億円(1、2号炉の分も支出があった為)電気金値下げは、泊原発再稼働後と考えている。(※値下げを約束してはいない)総会資料(連結計算書類の原子力発電設備費に記載)。

※会計報告では燃料売却益 33億2800万円、湯水準備引当金は本年度も全額取り崩し。

■人材確保をどのように考えているか?

・児童がいる家庭の送電停止は児童虐待なので、警察や自治体にただちに通報してく

ださい。(意見)

会社回答:人材の獲得競争を認識している。広報活動、インターネットシップ拡充、新卒採用のほか経験者採用、カムバック採用、友人知人からの紹介で採用。技術継承・オンザジョブトレーニング、若年層を早期に戦力化、中堅リーダーシップ向上、マネジメント強化をしていく。

■核燃料資産の売却計画、どれくらいの余裕があるか? 売却益は何に使うのか?

会社回答:保有している資産の有効活用。再稼働時期を見定めながら必要な量を確保して売却、この先ことは競争原理の機密事項に振り回答できない。自己資本比率の向上、企業価値を高める。

■原発廃止、再生可能エネルギーを更に進めるべき。何故、北電は再生エネに本腰を入れないのか?

・再生エネ由来の電力供給、LNG火発の稼働計画は当初より遅れているのに、早めたかのように広報するな。

会社回答:出力調整のために火力発電を使用。電源計画は需要を親ながら。大きな供給が見込まれる。30万キロワットの調整可能。当社、再生エネ開発推進部は2年前に開始。



脱原発をめざす北電株主の会のみなさん

(写真)マシオン恵美香

口頭弁論報告会

札幌高裁(8002号)での控訴審第4回の口頭弁論があり、その後、高教組会館で報告会がありました。

1時半、晴天の大通り公園に22名が集合、写真撮影、2時半からの法廷には60名が参加し、その後の報告集会には47名が参加しました。

冒頭、十勝、芽室町在住の小寺卓矢さんから意見陳述について、裁判所に届く陳述書を書くか?と悩んだが、実直な自分の意見を書き、科学的、統計的データでない、子どもたちとふれあう絵本作家の立場、「子どもたちへの責任」という観点から意見陳述を行ったとの報告がありました。「法廷では、意見陳述後拍手があり、裁判長に制止される場面があつたが嬉しかった。」の話もありました。大人として「無責任な事をしたくない。ちゃんとしたい。」との小寺さんの思いが強く届きました。裁判官にも届いたと思いたいです。

続いて難波弁護団長から「小寺さんのしみる意見陳述がすべて」との裁判報告があり、また、能登半島地震を受けての関連する書面は次回以降の提出となるとの報告もありました。

また、この度、裁判官三人の交代がありました。進行については北電の適合性審査の進捗だけにあわせることなく裁判所が判断するという従来の方針が引

き継がれているとの報告があり、私は、札幌高裁での勝利に希望が持てると思えました。

その後、マシオン世話人から第1000回北電株主総会での話があり、特に防災についての北電の避難計画を自治体へ丸投げする無責任な体質に怒りを覚えました。

最後に、廣谷事務局長より、開廷1時間前の大通り公園集合は、早いのではないかと思いますので、次回、検討したいとの話がありました。

文責・上出晶子



しみる意見陳述をした小寺卓矢控訴人



マシオン 恵美香世話人

年間活動報告会

口頭弁論報告会の後には、2023年度の活動報告会が行われ、33名の会員が参加した。

難波徹基弁護団長の開会の挨拶のあと、問谷共同代表から、年間の活動計画報告があり、コロナで中止になった活動もあつたものの、3月からは、北海道知事宛泊原発再稼働させない署名活動が始まり、また4年ぶりにリーフレットを刷新、昨年に引き続きチカホでの勝訴記念のイベントを行うなど、ほぼコロナ以前の活動にもどりつつある報告があつた。

年間決算報告が大倉会計担当からあり、在田会計監査から、「適切に会計処理されている」旨報告。

続いて、市川共同代表からは今年度の活動方針案が提示され、裁判所とのやりとりの中で、控訴原告等の異動調査に係る話題があり、結審に向けた動きが想定できることから訴訟外活動で、勉強会の必要性を説かれた。

その後、今年度予算案について、昨年の実績により、カンパ金の予算の減少、ホームページの改訂費として、新たに予算の計上などの説明があつた。

その後の意見交換会では、「廃炉とは何か」の勉強会を行ってほしい要望があり、裁判所からも、「廃炉」についての根拠を示されていることから、検討している。と、返答があつた。

その他、昨年度の弁護団費用がゼロであることから、「かかった費用は、きちん

と請求するべきである」との意見もみられた。
2024年度の役員体制は昨年度と変わらず、拍手をもって承認され、報告会を締め括った。

文責・村本深雪



難波弁護団長



市川共同代表



大倉世話人



在田監査人

地域連絡会報告

泊原発廃炉の会・そらち

泊原発廃炉の会・そらちは2014年に発足してから10年が経ちました。森山軍治郎さんが中心になって、空知地方の原告や賛同人を募集してこの会を立ち上げました。

お元氣だった森山軍治郎さんと津軽海峡を超えてあさこはつすを訪問しました。

熊谷厚子さんのお母さんが大間原発の敷地に隣接した土地を守り続けてきましたが、突然不可解な病で他界しました。娘さんが母親の意思を引き継ぎ、今も土地を守っています。

森山さんと6名は、短時間でしたが、あさこはつすで飼っているにわとりやあひる、烏骨鶏、犬、猫と一緒に歓談しながら楽しいひと時をすごしました。軍治郎さんが、烏骨鶏の卵を一気飲みして盛り上がりました。

お元氣だった森山さんが3年目に他界し

たので、泊原発廃炉の会・そらちの会は、森山さんの意思を継いで、10年間、なんとか継続しています。

2024年度は、3月31日に総会を持ちました。参加者は12名でしたが、総会後に「THE DAYS」第2編と第7編を試聴し、昨年は、第1編と第8編を視聴しました。

8月25日に「福島第一原発事故が人口動態に及ぼしている影響について」の講演と、寿都町訪問の報告を岩見沢市民会館で行う予定です。

福島原発事故はおわっていない

事務局長 中川 洋子



吉田昌郎所長を演じた役所広司さん

十勝連絡会

7月27日土曜日、豊頃町の物産直売所前、帯広と釧路を結ぶ国道38号線沿いで「さようなら原発」アクションを行いました。参加は、地元の方3名を含む14名でした。いつも今日はリアクションが多かったねとか「今日はだいたいいつも通りのリアクション」など感想を述べあうのですが、一度も手を掲げることがなく、メーリングリストにもアクションの数を数えることにして、今回からリアクションの数をみなさんでカウントすることにしました。30分の行動を終わってみると、手を振り返してくれたり、クラクションを鳴らしてくれたりなどのリアクションの数は、35。実に1分に1回以上のリアクションです。「今は、21」「いやいや、22です」と確認しあい、盛り上がりました。地方都市の悩みは市街地でも歩行者が少ないことですが、こうして郊外に出てみると車からのリアクションは励みになります。豊頃町アクションは今

シーズン9回目、2020年から72回目の取り組みとなり、延べ参加人数は1428名となりました。

直前に「敦賀2号機不適合の報道」とともに、原発建設費を事前に電気料金にかぶせて徴収するという案を経産省が検討しているというニュースも入ってきました。「安い」と言っていた原発建設費を国民に出させ、事故を起こせば賠償金や廃炉費用も国費(税金)や電気料金でまかなうというのは泥棒と同じ。電力会社は国民にたかるなんて、みなさん怒り心頭でした。

第12回目は9月14日東別村農村環境改善センター前、第13回目は9月28日鹿追町道の駅でのアクションとなっております。道東を旅行される計画があったら、ぜひ一緒に路上に立ちませんか？

事務局 菅原哲也



7月27日豊頃町でスタンディング

釧路地域連絡会

6月15日10時から講師に大串伸吾(寿都町議会議員)氏を迎え、釧路市生涯学習センターで「原発も核のゴミもいらない! 6・15釧路集会」が開催され、市民30名ほどが参加した。

集会基調講演では大串さんが、国の進める核のごみ最終処分に関する問題、寿都町での文献調査の中でのジレンマについて話題とし、文献調査開始から3年が経過する中、寿都町、神恵内村で概要調査以降へ進むかどうか瀬戸際に立たされていること、地域の分断が生じるきっかけとなった調査受け入れから、町長選議員補欠選挙、昨年の統一地方選挙、裁判を含む経緯、NUMO(原子力発電環境整備機構)が寿都町で開催している対

話の場で住民意志が反映されない進行の仕方、地元分断の具体例、住民投票を目前にした寿都町民の会の活動についても報告された。2014年当時、釧路地域にも最終

世話人 マシオン 恵美香



寿都町議会議員 大串 伸吾さん

大通公園でパレード

12年前の5月5日子どもの日は、泊原発が停止した日です。これにより全国すべての原発が一時的に止まりました。泊原発にとって節目となるこの日、核ゴミの北海道への持ち込みや泊原発の再稼働に反対する「北海道大行進」が、札幌市大通公園で行われました。

デモに先立ち、公園で道内約70の市民団体などが集まり、泊原発の再稼働反対と核のごみを持ち込まないことを訴えました。その後、手づくりのプラカードやのぼりを掲げて、大通公園から札幌駅方面まで市民にアピールしながらデモ行進しました。

集会を主催した「泊・核ゴミNO!道連」によると約200人が参加し、「子どもたちに核のない未来を」などと訴えました。

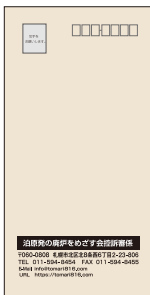


お願い

控訴人等の異動確認

裁判所との協議の中で、控訴人及び被控訴人の氏名と住所の異同についての確認がありました。控訴後、氏名・住所が変わった控訴人・被控訴人について異動の確認するため、9月17日に回答書を郵送します。

異動があってもなくても、回答書にご記入の上、返信用封筒で返信をお願いします。郵便料金が10月1日から値上げするため、早めのご返信をお願いします。



ボランティア募集

事務局の活動をお手伝いしてくれるボランティアさんを募集しています。ニュース発送時のお手伝いなどをお願いします。TEL 011-594-8454

署名のお願い

能登半島地震から7か月、8月8日には南海トラフ沿いに関連する震度6弱の地震が宮崎県で観測されました。毎日のようにあちこちで地震が起きています。泊原発が停止して12年、泊原発の廃炉をめざす会は、活動の原点に還り「泊

原発の再稼働を認めないでください」署名を鈴木知事に提出します。10月末日までに多くの方に声掛けをお願いします。

ハイロの会HPから署名用紙を出力してください。



第6回 ハイロ川柳

原発止めても暮らせた日々をもう忘れたか！

北区 浜野さん

寄生委と 看板替えな 規制委よ

江別市 T.N.さん

札束で 頬をたたいて 処分場

手稲区 くちご妙さん

原発で 緑の地球 壊さない

岩見沢市 ブルームーンさん

声高く 原発反対 能登守る

音更町 菅原さん

核災禍 知りつつ進めた 原発か

釧路市 伊藤さん

集会 デイアブロキャニオン 原発周辺事情

オンラインの参加も可能!

～老朽原発の稼働延長と廃炉後の核ゴミの未来～

日時 2024年9月24日(火) [開会] 13:00～

会場 衆議院第二議員会館 地下 第一会議室 (東京都千代田区永田町2丁目1-2) 会館ロビー入口で荷物検査後、「入館証」を受け取り入場してください。

札幌会場 [パブリックビューイング]エルプラザ 2F 環境研修室 (札幌市北区北8条西3丁目)

会場用配布資料 500円

第1部 基調講演 講師 キャロル久末さん

2024年廃炉予定だった デイアブロキャニオン原発が稼働延長に?!

第2部 鼎談 キャロル久末 (講師/現地住民/原告法人メンバー) 市川 守弘 (当会共同代表/前弁護士/弁護士) マシオン恵美香 (当会 核ゴミ問題担当世話人/進行)

Zoom申込み Zoomによるオンライン参加を希望の方は、下記のID、パスコードを利用ください。ミーティング ID:812 1547 6189 パスコード:052694

また、お気持でカンパ金のお振込みを期待しております。

お振込み先 郵便振替口座 記号番号 02790-1-100850 泊原発の廃炉をめざす会

連絡先 泊原発の廃炉をめざす会 担当者:090-7510-9361(間谷) 月曜日・水曜日 10:00～13:00

第7回 ハイロ川柳を募集

脱原発・核ゴミ・泊廃炉に関する川柳を募集します

- ★ハガキに川柳を書いてハイロの会川柳係まで
- ★住所、氏名、連絡先を書いて一通に3句まで
- ★氏名は本名又はペンネーム又はイニシャル
- ★掲載=川柳係が選定(図書カード進呈)
- ★第7回の応募締め切りは10月末日

問合せ先:090-6443-3195(加藤まで)



控訴審第5回口頭弁論

2024年11月15日(金)14:30～

札幌高等裁判所(札幌市中央区大通西11丁目)

報告会 口頭弁論終了後 ~16:30

会場 高等学校教職員センター(札幌市中央区大通西12丁目)